

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

長谷川 宏

説教師の名称は早くも平安期に始まり、これを專業にする法師があつたことは徒然草にも見える。これが一種の謠い物に変わり、説法の本意を離れて説経節を生み、浄瑠璃に移つていったが、そうした変遷の跡にも「説教」は寺院の間に残つていた。しかしそれは宗派あるいは地域によつて、かなり差があつたようである。

この資料は、筆者が十四、五年前、長野県諏訪市の古書店から手に入れたものであるが、奥書に

墨付四十二枚

于時天保十三寅蠟(ろう)月中旬写之終

本書ハ中山田村光西寺殿ヨリ

潜竜山万蔵寺釋秀晃(花押)

とあり、「大日本寺院総覧」によれば、光西寺は「真宗本願寺派協間上高井郡山田村」、万蔵寺は同じく「真宗本願寺派 平僧 上高井郡井上村中島」に所在した。内容は熊谷蓮生坊に関する説話を十二回に分けて語る口演の台本で、次のようになってゐる。

(第一会) 第一頁一行目から、第一〇頁三行目まで 熊谷直実宇

治川の合戦で、すでに発心のきざしを示す。

第二会 10 / 5 - 18 / 2 須磨にて敦盛を打つ。

第三席 18 / 4 - 23 / 10 吉水で法然に入門。

第四会 24 / 1 - 30 / 11 蓮生、敦盛の遺児を預かる。

第五会 31 / 2 - 35 / 9 敦盛遺児仏心坊、敦盛の靈に会う。

第六会 35 / 11 - 41 / 2 蓮生、逆馬で東下り。

第七席 41 / 4 - 47 / 8 藤枝で追剝にあい身ぐるみ脱いで与え

たので無一文になつてしまひ、酒屋で念仏十遍を質入借錢。

第八会 47 / 10 - 55 / 2 (相模国で津ノ戸三郎にあう。)京への

帰途、藤枝の酒屋で借錢を返済、念仏を返してもらふ。

第九会 55 / 4 - 60 / 7 往生は不定か一定かを説く法然消息の

真意。

第一〇席 60 / 9 - 68 / 8 蓮生、法然が勢勸坊に与えた金色の

名号を盗む。

第一一席 68 / 10 - 76 / 1 法然、蓮生へも名号を書いて与え、

勢勸の名号を返させる。

第二二会 76 / 3 - 84 / 1 蓮生、武蔵国玉岡庄にて上品上生の
極楽往生を遂ぐ。

こうした長篇の説法講釈の台本の存在を、熊谷直実の出身地、武蔵国で聞かないのは、不思議なくらいである。

しかし今回この紙面を借りて、当資料を紹介する目的は、この資料に使われている異体字を見ることにある。しかも指導者的な位置にあった学者の研究物ではなく、十分な学力があったといえない普通の僧侶の書写した文章の中で、おそらくその仲間だけに通用したとみられる異体字に、きわめて初歩的な考察を加えてみたいためである。

一、近世には、すでに異体字として認められていたものがあつたことは、異体字辨(中根元珪)、同文通考(新井白石)その他の著作から知ることができる。たとえば

起横 1 事 1 / 8 (第一頁八行目)

ニツ 1 笑ヒ 第8頁9行目、第25頁3行目

ホ 等 41 / 10 (同文) 省文

元 無 6 / 8 无 (異体) 古無

美 靈 30 / 11 (同文) 譌字 (異体) 俗靈

至 聖 1 / 1 至 (同文) 省文

夏 事 44 / 4 (同文) 譌字

株 様 39 / 1 (同文) 様、譌字

杯 等 70 / 5 (同文) 国訓ナド猶言等也

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

違 19 / 6 (同文) 省文

匠 50 / 2 匠 (異体) 俗匠

貴殿ノ市近ヘ市案内ヲ
報ミタヘ斤終ニ法尔様ノ
市子トナリ

起直 會 10 / 4 (異体) 古會

會 31 / 1

吊 甲 16 / 9 (異体) 俗甲

坐 23 / 8 (同文) 坐也座作座並非

羅 33 / 8 (同文) 省文 参 33 / 8

國 1 / 4 (同文) 省文

顯 1 / 1 顯 (異体) 古顯

起斜 信 18 / 1 (異体) 古信

德 10 / 7 (同文) 省文 安 安作天皇

教 18 / 7 (大字典) 教 (異体) 致 古教

教 39 / 5 效 50 / 3

樂 49 / 2 (同文) 省文

今生ノ茶花ハ凡前ノ燈ト末末永劫ノ
糸ミコソ大夏ナリ

無 3 / 11 各 (同文) 無

勢 1 / 1 (同文) 譌字

契 31 / 9 (同文) 譌字 契

49 / 2

50 / 2

飯 歸 8 / 7 (大字典) 略字

笑 笑 8 / 9 (大字典) 笑と同字

仏 佛 17 / 4 (異体) 同佛

紙 紙 45 / 5 (異体) 同紙

弁 辯 47 / 8 (同文) 借用、弁辨音相近、借作辨辯等字

美 美 24 / 9 羨(同文) 譌字

宝 寶 46 / 3 (同文) 譌字

勇 勇 14 / 2 勇 38 / 9 (同文) 譌字

衆 衆 19 / 11 (大字典) 衆 俗字衆、从、略字 衆

拔 拔 13 / 9 (同文) 杖拔ノ俗字、ヌキイツ拔也

承 承 1 / 3 (同文) 譌字

愛 愛 24 / 8、25 / 9 (同文) 省文

愛也如愛慶等从友並非

磨 磨 10 / 10 (同文) 誤用

魔 魔 41 / 8 麻・磨・摩・魔等字俗皆省作广

广エン音 剌、小屋之別名

后 后 3 / 5 (大字典) 後二同ジ

菩 菩薩 1 / 1 (同文) ボサツ佛氏菩薩ニ合省字

菩 菩提 16 / 9 (同文) 菩 佛氏薩埵ニ合省字

菩 (異体) 菩 同菩提

以上、近世に一般的に異体字として認められていた文字を拾い出してみたが、それ以外に次のような異体字があり、それらは簡省化を意図したものと、草書体の様式を固定化したものとの、二類に大きく分けられるようである。

二、簡省化を試みたもの

a、偏旁冠省の省略

○偏を省く

起横 師 20 / 5 師、聖經 2 / 7、35 / 3

可 呵 25 / 3 解 60 / 7 疑 21 / 4

起直 程 9 / 3

起斜 修 33 / 6 修 行 修 参 全 詮 13 / 6 全方ナク

波 波 17 / 10 波 説 83 / 11、54 / 9 今 論 37 / 1 喧嘩口論

致 致 69 / 9 立服至テ

起斜 獄 40 / 5

○冠を省く

官 管 12 / 9 待 哥 官 絃

○省を省く

吾 吾 49 / 10 能 冬 思 ハ 燒 シ イ ハ 土 冬 ノ 上

安 案 32 / 5 安 内、安ニ不 處 19 / 6

非 悲 26 / 2

b、各部の画数の省略

○偏の画を省略する

起横 礪 櫻 1 / 9 木偏をすべて才と書き手偏と区別しない。

起直 月 明 35 / 3 朋 47 / 11 山 仏 79 / 7

得 55 / 11 藤 輪 12 / 7 暫 暫 13 / 11

轉 17 / 6 頼 頼 2 / 4

起斜 勸 勸 1 / 2 歎 82 / 6 觀 55 / 7、60 / 8

勸 勸 21 / 1 勸 勸 82 / 7、82 / 8

如 如 5 / 2 (同文) 片仮名メ、女ノ字ノ省文

妙 妙 78 / 9 婦 婦 54 / 7 始 始 8 / 5

嫌 嫌 1 / 8 嬉 嬉 10 / 3

改 改 35 / 6 降 降 6 / 7 陳 陳 1 / 9

從 從 3 / 11 影 影 32 / 1 離 離 20 / 9

対 対 23 / 3、33 / 5 討 討 2 / 5 侍 侍 12 / 9

裸 裸 42 / 1 袷 袷 42 / 6 結 結 79 / 3

歎 歎 14 / 8 難 難 54 / 5

○旁の画を省略する

起横 杭 杭 5 / 5 通 通 5 / 2、7 / 3

起直 唯 唯 22 / 5 佳をすべて崖と書く。次 喻 58 / 6

起斜 肝 肝 43 / 3 備 備 28 / 11 僅 僅 14 / 2

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

○沓の画を省略する

起横 无 喜 28 / 5

起直 畏 畏 53 / 11 早 早 1 / 10

起斜 宇 宇 2 / 1 若 若 5 / 8 着 着 7 / 5

愛 愛 31 / 5

○全体的に画を省略する

起横 南 南 43 / 3 内 内 三子 三子 59 / 6

用 用 36 / 9 頼 頼 32 / 6

起直 同 同 1 / 2

門 門 43 / 6 問 問 15 / 11 聞 聞 4 / 3

慢 慢 78 / 4

起斜 毛 毛 12 / 7 聞 聞 49 / 11 気 気 5 / 8

念 應 1 / 1 善 善 30 / 3 臨 臨 33 / 7

c、合字その他

カ より 81 / 9

メ シテ 20 / 8 コリヤ馬子堪忍メクヨ、法尔上人熊谷へ対シ

メ シテ 39 / 7

中 トキ 1 / 5

丘 トモ 1 / 6 是カ源氏に喰へ軍ナリ 一間ノ中へ丘ナハ 4 / 11

トテ 4 / 7 行モノヲ馳走ニモア一益 29 / 9

44 / 5

ト云 1 / 4 玉フ (給) 13 / 6

ノ手 / 多 (宣) 22 / 9、76 / 7

○省略した二字の合字

シ 弥陀 21 / 1 夫ヲシカ 80 / 4

シ 極楽 1 / 1 浄土 1 / 1 仕 浄土 18 / 6

生 往生 16 / 5 板ニ位ヲ遂ケン 56 / 10

朱 如来 22 / 4 砂煉ヲ冷シテ井末切引掛シテ 61 / 11

○一字で数字を代表する

曼茶羅 78 / 1

○二字で

南無阿弥陀仏 22 / 7

○同じ意味をもつ字画の少ない文字の轉用

耳々 聞 (御聞) 1 / 3

次カヲ并シテ耳々ニ入マセウ 1 / 3

今ハ法尔上人ニ対面ヲ遂テ抄本双ノ耳々スレトモ 23 / 3

此ノ了テ手鏡ト大加ミ多々行巻ミ 60 / 7

上末耳々ノ通リノ谷ニテ敷置ヲ打 18 / 5

三、草書体の様式をそのまま固定化して使っている場合が多いが

寺子屋で草書体から文字の学習を始めた近世人にとって、草書体は

簡省化と同じ意味を持つのではなからうか。むしろ簡省化の一分野

に含めたほうがよいかもしれない。明治期以降の近代教育で漢字学

習を楷書体から始めた我々にとっては、万蔵寺の秀晃師に替って考
えることはむずかしいものである。

事 18 / 1 (大字典) 晋元帝

御 25 / 8

御 28 / 5、34 / 3

御 30 / 7

○起横

用 36 / 9 廿 1 / 6 互 互 11 / 2

互 13 / 10

匠 50 / 2 亦 樂 61 / 10

茶 葉 22 / 6 考 殊 天 三 樹 と ケ ル ヲ 61 / 10

歌 12 / 9 奇 寄 32 / 2 奇 奇 61 / 3

尤 29 / 8 願 願 19 / 5 願 願 19 / 9

慮 慮 38 / 5 慮 慮 4 / 6

段 段 31 / 2、32 / 2、54 / 6

故 5 / 9 攻 攻 2 / 8 有 有 2 / 9

布 者 2 / 7

違 19 / 6 迄 迄 1 / 3 迄 迄 54 / 4

威 威 4 / 1、4 / 3、65 / 8

拙 52 / 11

○起直

替 替(麥) 熊谷ノ先へ行ハ替タ奴シヤ 8/1、41/8

侍 侍 19/6、53/3 サムライ

末 末 未来ハ一連タク生 16/5

須 須 順^(須)廣ヤ明石ノ大海 10/10

鞍 鞍 12/7、48/1 矜 恥 14/9

招 招 13/2 枚 枚 42/6 蘇 礫 22/8

曆 曆 17/9 平家ノ曆々

付、関東方言的発音

イ↓エ 是カ源氏 佗 喰へ軍ナリ 4/11

ウツムイテ手辺ヲエラレマヒト 7/10

平家ノ軍兵思へヨラヌ方ヨリ責メラレテ 11/9

夫ニ盗ヌトハヤクタクヘモナヘ 71/10

エ↓イ 馬ハ得動カヌ 6/5

父ノ 我ノ為出家ニセント思ヒ 佗 26/10

弟子共カフルイ^(糸)腰ヲカ^(糸)メテ 69/6

シ↓ヒ 親ヨリヒタシク 未来ノ 我ヲ吊ヒテクレルト

ハ 16/9

べ↓メ 敦盛両眼ニ泪ヲ浮メ 16/7

五、不明

示 然 21/1 示シ(然シ)

尔 然 1/1 法尔上人

匹 難 23/7 有匹^(糸)本^(糸)

巨 難(くずし字用例辞典)

双 願 21/2

幽 幽 30/11 幽^(糸)

歹 職カ(識の誤) 偏へニ敦盛コソ我為ノ知反 (異体) 歹 古布

ニ 深心、信心カ

ヲ 吊ヒクレルトハ 16/8

打取ル^(糸) 佗^(糸)シニ勝ル^(糸) 佗^(糸)、親ヨリヒタシク 未来ノ 我

親類并ニ親シキ朋友ニ^(糸) 佗^(糸) 是^(糸) 効^(糸)メ度存シ 36/4

最後に、もういちど考えてみると、これは異体字の問題というより、簡省化を急ぐための書体の混乱というべきかもしれない。とくにこの資料は、自分の私的な手控であって他人に読ませるものではないから、無秩序な恣意的な簡省化がめだつのもかもしれない。しかしこの書体の混乱の中に近世庶民の姿が見えるというのは大袈裟ないいかただろうか。漢字の問題は現代でも忘れられていくわけではない。ましてワープロの普及は、これから一五〇年後にはどんな問題を提出してくるか。

熊谷蓮性記

1 / 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

元祖法然上人ハ麻生ノ大勢至赤法ホト显ニ道類念
 同ノ功以熊谷次良直實カテ情ホ至人ハ即入門ノ
 次オヲ赤シテ專ニ入ニセヨ子供近業知ノ鬼ヲモア
 サク人ハ武修國崎ノ玉郎熊谷如ノユ庄園
 ヲ構タル人ニ若キ中ハ不事ノ義義難ニ仕一テ
 栗原木義平トトニ大買門ノ戦ヒホ六騎ノ一人
 トヨハレテ十六騎ニテ小取ノ土百餘騎ヲオヒヤ
 アシタ人シヤ軍ニ立シテ人ニ負ル一ノ源ヒナ人
 シヤイソテモ先陣ノ手柄シヤアノ世間ニ熊谷橋
 与アリ橋ノ中早咲ニ一矢橋ヲ越ニ谷橋后具熱

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

3 /

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

跡ヲ夫熊谷ハ本國熊谷如ノ出生ナルカ故ニ所ヲ
 以テ名トス熊谷直實ス一テ如ノ名ヲ以テ名トス
 ル例其數アリ、園田ノ大常天野、白常トヤノ百數
 ニ中ニ穴熊谷ノ直實セシハ一ノ谷ノ合戦ニ致整テ
 殺シテ后ニ發心トアルト本末發心ノキザレハ片
 沼川ノ合戦ノ中ヨリ起ル其由未ハ原氏ノ大將
 木曾政其止ニ毎永ノ頃節ニハ心コル判家ノ
 一族王位ヲ念出ル殺逆アルハ是ヲサテ示セトノ宜
 余ヲ蒙リ本常ヲ義仲都ニ責メ登リ北國
 ノ鬼神ヒ云ハルニ勇子ナレハ中々ニハ心コル判家
 ノ一族ニ忍テ足橋、是尽ニ殺ラレトフト都モ

2 /

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

谷カドウシテ發志シ夕后ニ宇治川ノ先陣中テ發
 心ノ根カサザレタ莫ニ鬼ヲモアザムク人ナレハ或子
 后モノハ可受モノト思ヒ義仲公都ニ於テ旅
 藉ノ片天子ヨリ預朝ニ授宣ヲ下シテ義仲
 ヲ討取レヨト極セシメタ其片預朝ノ代官軍
 代トシテ、利仁者者ノリヨリ九弟利仁家義經
 冠イ官布ハ預多ノ方、向ス義經ハ宇治川ノ向
 大手橋ノ手ト別ツテ攻ラル、其片熊谷義平ノ
 手ニ其片宇治川橋ハヒイ而ル水ハ高シ六下別流
 熊谷ハ作休中人、町庵堂ヨリナ町斗岸ニ庵ヲ結
 ニテ居ラレタ今ノ金葉光月寺ハ熊谷ノ庵ノ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

多ク切捨行シソシヲ無答ノ先一行ハ發メぬしヤカ進
ヤ年元行ヲ又若キ者若サ後リニクヒト号
ノニ或ニ先立モノハ何者ヤセレテ居ハ若武者
跡フリカリテ見ハ外テハナシ或子ノ小作希連集
ユリヤ俸テハナシカ今ハ始テ軍ノ見習ヒニ出テ
ナ是ヒ一ラスルモノカ形ニ莫入ヌナリヲレテ
豚サカカメテラヌニ先凍トハ思ハヨラヌ跡ハ叙
テ若集ニ集テ馬符ニテ一月ニ度ハ俸小作
ニ一ノ符ハ何作セラル莫ノ入ラヌトハ米也
ニヨレ武者ノ子ニ莫ノ入ヌトハカアルカ或幼年
ナヒ居ノ録ヲ預クアラハ余餘命ヲ取高名

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

ニセヤナラヌ甲麻ハ平生ニ痲病カアレハ橋ケツ
ハ是レ跡ハ叙リ玉ハ思ハス杜谷ホツコリト
辰シマニ武村ノ夕ノヒヨカテモハナシハハツ
ロナハツホミノ花アニコソノ高名ケツケレト
生進勤ク若アレカ余終ラハセニナキ一
令ヲ養テフチ家ヲ檢多ク檢軍中ニ望ミセヤ
ナラヌ面テモ一トヒノ夕ノヒヨケナシモノハナシ
ト其巾袋起ノ手ザレカ出末ト有吏ヨリ
木雁京ハリヲ度リテ先凍ハ集答親子ハ
橋下ツタノ高名セテレヨセル敵中ハ入
テハ遊ニ木常義仲栗俸ニテテ死致セヌ

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

是カラテ一答ノ軍テ存々ハ合心セラルハ是モ又
越ノ明後法ラシカカラ思ハハ此種ハ家ヨリ
后所カ即家トテラシモ左ヤ南一ム
上未無答ニハリ橋下ツタヒノ件ヨリ右家
心ノキサニ正ク尖一答ノ軍ニ合心セラレタ
我ノ口末ヲ尋ヌル其カミ平家ノ一門軍
天皇ヲ守リ津ノ岡一答十万余騎ニテ城郭
ヲ得生田ノ森ヲカメトハ鐵カイガ率ヲ
年ニ取リ領ニハカメトハ大海ヲ城トシ固ニ
夕三折柄ニ録倉ノ追手トシ薩ノ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

平家長五郎東勢ヲ引率シテ一答返セメ下
近年カラメテキハシキ戦ハ原年五ニ火足ヲ
シテレノキヲテツリイワカ勝負ヲツクキ見
ハサルニ平家ノ謙ノ上ヨリ赤雲メナキ原武
ノ謙ノ上ヨリ白雲メナキ赤雲ノ如クニラミ
合ラハ大將系五軍所タリニシテハ魏童
カイガ謀テ依テ生シ田ノ森ヨリトヨトリ
アリ鉄カイガ家年ヨリ一答一近道カ答ニ平
家ノ城ハ一丸ト入平家ノ軍兵也ヨラマ
ヨリ責メラレテ十方ミクテ折柄原原屋ニ不
残大ヲ付テ愛ミ星一彼マニ破レテ討兵ト成

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

非ス我居ヲ奉奉ニ是ヲ道ニ教トシテ出衆
得脱仕レ居ノ后世ヲ勸ム奉ラニ和モソハ夫取
ノ習ヒト人今生テモソアメトナリ教トナリ即
ヲ奉奉トシテ追々出衆トシテ共ニ或ルノ家
ヲ求メ末末ニ運メク生ノ生ヲ極メセウ呈
ニ早ク即名ヲ治リ玉ハ教盛兩版ニ泪ヲ降
ソ極ニ其方ヲ教方ノ諒中ニマナクソナ
情保キ人ニ以合ヒテ其レニ其レニ其レニ其レ
ヨリヒメシク末末ノ其ヲ品ヒテテクハトハ和
モ其レシイフ是ニ過ス云ラハ或名ヲ申サニ成
コソハ和末末ノ其レ其レ其レ其レ其レ其レ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

兼事トハ我レノ和ハトナラヌ即多ヲハ姓各
手ニ職奉ルレテ多ク候ニ其レ其レ其レ其レ
悟ノ上ナレハサラハ今生ハ是限リ必ス末末ハ一運
生ト五ニ名残ヲ再カクシ西方ニ向ヒテ南ノ山トテ
供ニアナクテ申レタリ夫ヨリ姓各其正ニ並
ニ吉水祥坊ニ来リ六世ハ百海博妻ノ境界
ト云飛鳥川ノ淵願ニ誓ヒ世ノ習ヒテ昨日五六十
万景天子ト崇メラレテ皇末皇ノ始メ即公
達平家ノ一層ニモ今日ハ西海ノモクゾトナリ
尋ノ良ノ成ニ此ニテモ是等遠去ノ定昔末
リ是ノ因ニ付テモ々カテ六世ハ其レ其レ其レ

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

コソ天ノト行平共成但ヲ得テ敵モ々方モ
一月ニ運流生ノ時証リ
和徳谷登正起シテ出衆ト人ノ即子子
十ニ上末多多一ノ谷ニテ教盛ヲ其正
テ都ニ登リテ其レ其レ其レ其レ其レ其レ
同キテ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ
一冬ニテ末末其レ其レ其レ其レ其レ其レ
即尋末ルル其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ
サレシレテ即其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ
才子准レトイセテラナレモノ其レ其レ其レ其レ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

是カ成皇天容ト申ス即名方ハ一カウ伝ト姓
谷表ハ出手水鉢ノコリノ行テ氷ノカクナル
體直シ懐中ヨリ取レテサツサト磨キハラ合セテ
玄関ニ来リ即兜トテ上リ其レ其レ其レ其レ其レ
ト申スモノ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ
才子方行ニテ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ
原平ノ成ヒニ各アル姓各ハ行テ末夕知ラヌ
其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ
行テモ見えラヌ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ
サンニ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ
其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ其レ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

人ノ右ノ赴キテ申ニメレハ只人ナラヌ人ノヤ
ノ苦ラナト吾ニ答テテ見テ夫ノ私トモノヲム
カニ故ソウヤアハナトドレ各連ヒセウソノコテ
即チ子孫ニ全テサア印持ト師ノ印持ノ
而対面アリ直リ五ト云ヒツモ一方印持近ノ所
夕ニ危キ一ノアアハ面ニカラ一一杯ニ傷キ大勢
シテ取テ防カンタテヤトシテ危ラシクハ
亦人然ルニ付テハ如ク来リレハ何所用
カ前録ノ中ニ出テ一夫ヲツ水ニ投シ来
ルニ故ニ神妙ナ事ニ引原成ノ十三人共名ト
呼レタル人ナレハ是メテ強執カ勇猛ニシテ多ク

21
11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

罪ニ造ラレタテ而テカホレ今法ホカカハルシ
本双ハ如キノ要人ヲ印目当ノ本双トレハ本双
スアリサレハ罪ノ多クニカニラス片ノ善悪ヲ
正フコトモ是生行ノ是ヒカテ念頃ニシテ
ハ無ク行テテシノ本双トレハ私カ答ナル人
ニ勝レタ要人ハ印持カハ有ナト云ヒレハ
其罪ハトモ私性得強執ニシテ殊ニ此世ニ
生レテ夫ノ要人ト云ヒレハカテテテテテテ
三十三騎ノ人ト云ヒレハ余騎シテテテテ
ニシテ宇治川ノ合戦下ツタヒ先廉シレテテ
合戦ニ版カケテテテテテテテテテテテテ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

我ノ如クイカニ武士ノ習ヒテナカラテ大悪
人カドシレテ助ケラレセテテテテテテテ
印持ノ印ニカカハニ付テはル人ノ然ル事
其罪深クモヒテテテテテテテテテテテ
要人毒にテテテテテテテテテテテテ
人外ノ業リノ及ヒテテテテテテテテテ
為ニテテテテテテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテテテテテテテ

23
11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

イカントノ事ハ然ル是ト云候ト懐中ヨリ鑑
通ニテテテテテテテテテテテテテテ
人ニ対面テテテテテテテテテテテテ
モノハテテテテテテテテテテテテテ
レトカテテテテテテテテテテテテテ
ニ指一本切テテテテテテテテテテテ
終テテテテテテテテテテテテテテ
スニ居テテテテテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテテテテテテテ

才 四 會

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

去序教盃ノ次ハ四輩ノ才ニ下急ノ国結城
 ノ郎新居山跡者子ノ国基山原坊ハ祖武
 天皇ノ后胤天宮大夫ノ子ニ由未ヲ尋ヌ
 ルニ然谷生家ノ深生ノ光明子ノ四ニ位在致
 サレ余リ言水ノ禪坊ノ日毎ニ出仕致サレ夫
 妻ノ思ハ夫ヨリ今ノ新屋谷ノ辺ニ慶ヲ終ニ
 住セシカ時ニ夫然谷ノ庭所ニ梅ノ木一本ア
 リ夫ヲ愛望セラレ又中トシテ七八又ニナル
 容貌美クハ一ナル女性ニ三又ナル子供ヲ抱ニテ
 其種ノ木ノ下ニ抱ニ来ル或日彼然谷抄家ノ
 梅ノ枝ヲ折テ小兒ヲ慰ムル夫ヲ見ルト然谷

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

運性ノ例ノ短気ヲ出シ竹物ナレ或カ大功ニスル
 木ヲ喜下ニ折ルヤ未タム蘇ニモト又モノヲ大ニ考
 可ハ彼女ニツテ笑ヒ何名カ秘家ノ梅トヤ
 是非情ノ未テナレカメト折メレハヒ又未年
 ニ芽ヲ生スル一度切テ芽ノ生セヌモノハ人ノ前夫
 ニハチナデニ或大功ニ思フ夫トヲナセサメハソチ
 ハ何名ゾ或ハ喜信ノ大夫ノ喜ノ名ナルカハナ
 ゼニ或夫トノ花ノ盛ノト形ヲ正下ニ折奉ルハ
 非情ノ極サニ思フスレハヒ其容ニ怒ルテナレカ
 或ハヒヨリ道理ノ夫ヲ失ヒ后梅ヲ思ハ知シ或
 夫トニ別レテヨリヤモノノ夕ナリ熊林ニ去テ

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

在スニホニニ有ニハカナキ難美シテ断ニ人ノ
 情ナニ六子ヲ産ミ産ハシテ元非ヒ一ニ
 方ノ一門ハ夢西海ノ千尋ノモクストナリハテ三
 不ヲ見テモ尼ヲ詠メテモ世ニハ心コル原氏ノ故
 思ヒクテ夫裏屋ニ一月ヲ送り彼コノ裏三
 年ト教ヲ日ニ思ヒ出断ク月日ヲ送りセメテ
 夫カ妻ニノ共子ヲハ二月テントチハ心ヲ奪カレ
 年家ノ余数トキカレハ今五女子ノ人余ハナ
 中モノヲ思ハハク是キ多ノ行末ハカル志キ
 世ヲ逢レセメテハ父ノ誓ノ後公家ニセシト思ヒ
 カノ夕テハ海ヲ取ム便リモナクツクハ思ハ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

即ハ或夫トヲ折テ悉心妻家ノ身トナリシ中ヲ
 爾ヨリ叔ハ情ナアル人ト思ヒし故行幸六子ヲ
 美良育シテ出家ニナシテモテメサニ竹カナ
 縁ニモナルヤツニ思フ或心ヨリ今日夫梅ノ枝オ
 ルモ古一カ取ミメヒ存ニト活レハ然谷ノ信
 ハソツヒキナラチハ衣レナル物語りヲ因キ願服
 リ目ヲ取レ叔ハ真元ハ教盃ニハ毒人ナルヤナ
 或ニ谷合裁ニシナタノ夫トヲ折レ元其思
 テ折メレ非スヲ失ハ或情ナレ君ノ人余モ知シカ
 タクセ夫ヲリレ一ナレハヤメテ去セハ敵キトハ
 七未未ハ一原茂生ノ素懐ヲ然ニモノシト夫ヲ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 名ヲ仙仙坊ト名ナタカカルニ其仙心ナ来ノ片ナト
 思ヒケルハ人トシテ父母ナキモノハ一人モテ父母
 テ来ルモノモテテ母モ信モナト是カドウ
 云云ト思フ折柄世間ノ子供カ吉水ノ所庵
 堂(飛)ヒミ基ル日暮ニ蘇ミナルト親カ呼ニ来テ
 多ハル仙信モ子共カイニテは章へ淋シクナル
 政ノ口泪ニテ我ニハ父世ハナヒヤト思フ心ヨリ法
 亦人ニ尋ヌルハ法東人相ナカラ成ヨ主五ナ
 矣ニ子細ノ市ル一ヨト一同ノ中へヒナコリ松
 心其方ハ誰憐ラレ平家ノ大將重長木更敷
 盛ノ子成リヤ父教盛ハ一ノ谷ノ合戦ニサ死ノ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 名ヲ仙仙坊ト名ナタカカルニ其仙心ナ来ノ片ナト
 思ヒケルハ人トシテ父母ナキモノハ一人モテ父母
 テ来ルモノモテテ母モ信モナト是カドウ
 云云ト思フ折柄世間ノ子供カ吉水ノ所庵
 堂(飛)ヒミ基ル日暮ニ蘇ミナルト親カ呼ニ来テ
 多ハル仙信モ子共カイニテは章へ淋シクナル
 政ノ口泪ニテ我ニハ父世ハナヒヤト思フ心ヨリ法
 亦人ニ尋ヌルハ法東人相ナカラ成ヨ主五ナ
 矣ニ子細ノ市ル一ヨト一同ノ中へヒナコリ松
 心其方ハ誰憐ラレ平家ノ大將重長木更敷
 盛ノ子成リヤ父教盛ハ一ノ谷ノ合戦ニサ死ノ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 后熊谷運性坊ノ情ナニ依テ人トナリ父亦ノ
 家ヲサセ我亦子ニ致シメテ誠ニ親ノ
 思ハルニ追尋ノ通ヨリレク一ナヒソトノ玉ハ
 共物語リテ外テ他モ相ヲ辰シぬハ或コソ教
 盛ノ子テ而カカ行年父ノ遺具ヲ報セシ
 二丈斤天ノ百戦場ヲ解シ多勢具ハ弗亦
 二人(暫ク子殿ノ下サレトスハハ上人父ノ
 墓フ一ノ墓ニニ出百チ或皇イト一ツカハスト
 ノ玉ハ仙心モ大ニ売ニ夫ヨリ京ヨリ始メテノ
 ウリ旅トトニ道ニナク心細クモ只独リ佛國
 サシテ下ラレタリ此幽冥ノ段ト

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 夫ニ正ク教盛ノ幽冥ヲ語ラレ取仙仙坊ハ都ヲ
 津ノ國ヨリ舊多須ニ名ノ浦一ノ谷ノカワリ殿
 百戦場ヲ田ルニ平家ノ一族教乃人ノモレタル
 跡アルハ受ノ名同彼フノ浦也ニシレタル様ト
 一カ我父ノ骨ヤラ印シナケレハ全方ナク一ツ取
 テハ泪ヲ取レツ捨フテハ父立シヤト報カラ夜近
 位テ事リ居ラシメカ或皇ソウアリソウナモノ
 親子ノ契リハ深ヒモノ丈ニ生レヌ先キノ父面
 見ヌサ悲シヒ二人手ニカツテ死モテ一ツ
 キカヒセメテ親ノ骸ニ見ヒト思ハルニモ道理

才 五 出

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 名ヲ仙仙坊ト名ナタカカルニ其仙心ナ来ノ片ナト
 思ヒケルハ人トシテ父母ナキモノハ一人モテ父母
 テ来ルモノモテテ母モ信モナト是カドウ
 云云ト思フ折柄世間ノ子供カ吉水ノ所庵
 堂(飛)ヒミ基ル日暮ニ蘇ミナルト親カ呼ニ来テ
 多ハル仙信モ子共カイニテは章へ淋シクナル
 政ノ口泪ニテ我ニハ父世ハナヒヤト思フ心ヨリ法
 亦人ニ尋ヌルハ法東人相ナカラ成ヨ主五ナ
 矣ニ子細ノ市ル一ヨト一同ノ中へヒナコリ松
 心其方ハ誰憐ラレ平家ノ大將重長木更敷
 盛ノ子成リヤ父教盛ハ一ノ谷ノ合戦ニサ死ノ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 夫ニ正ク教盛ノ幽冥ヲ語ラレ取仙仙坊ハ都ヲ
 津ノ國ヨリ舊多須ニ名ノ浦一ノ谷ノカワリ殿
 百戦場ヲ田ルニ平家ノ一族教乃人ノモレタル
 跡アルハ受ノ名同彼フノ浦也ニシレタル様ト
 一カ我父ノ骨ヤラ印シナケレハ全方ナク一ツ取
 テハ泪ヲ取レツ捨フテハ父立シヤト報カラ夜近
 位テ事リ居ラシメカ或皇ソウアリソウナモノ
 親子ノ契リハ深ヒモノ丈ニ生レヌ先キノ父面
 見ヌサ悲シヒ二人手ニカツテ死モテ一ツ
 キカヒセメテ親ノ骸ニ見ヒト思ハルニモ道理

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

ナレ夜ニ入ルト向ノ森ノ小影ニ火カモユル生今
宵ハアノ処テ一宿シタヒモノト段ニト近寄リテ
見ハ断ク小キ菴リニ置ミニニ三枚レカソツ
ナ美イ処ニ只十六七ノ兒一人孤ニモメレテ書
物見テ居ル是幸ヒト身内ヲシテ一夜始リ度
由ヲホノハ主シノ兒成ト主心易ヒテ先ニ是
ト存入テ兒ノ本ニヤスニス十支ヤソコテノ作心
ナレハ旅ツカレテスヤクト左録入ルト夢ト多主
シノ兒ノ尋子ニテ父ハ行ノ目ヨリ来リ玉ヘ
幼少ノ父トノ只一人ノ行ノ肺ハ何ノ思ヒヨト
向レテ仙心モ取ハ成ハ成子前テ父ノ遺跡ヲ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

尋ルモノト始終ヲ語ル主シノ兒取テハハ成
子ノ保童丸カ成コソハ尋ヌル父教盛ナルソハ
成ヲ志シフ思ハ送ノ一夫如ニ尋子来ル
冥情ヲ不便ニ思ハ具度ノ契リヨリ魂魄去
ニ显テ対面スルゾヨト冥ニ武ヲ大カニ思フナラハ
近今情岸ニ仙法ヲ多行シテ成ヲキ跡ヲ
吊テクシヨ臨終ノ一念ニ口惜シヤ残念ヤト
思フ心カ直ニ多夢ノ目ト成テ人々少夢道ニ
唇入テ昼夜苦思ヲ多シクノ非レサハ出
家セシ道ニハ行幸成カ夫苦シミヲ除テシ
ヨ近付刻辰辰ハ又又少夢ノ苦思来ル長

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

早成子ノ名成モ是流リアレ其大致ノ言スルツ
后トドツト一面ノ火トナリテ始メメソコテ他大
キニナケ干飯ハ父上テツアレヤ今一夜ア成
見セテメトアナヒ名成リツナ分ハドコト
クソバロニソヨクト火ハヒニトセクトナルト
火ハ出ラ形ハ見入子に赤キリシテ成レクハ
尋ナ来テ見ヨ陣ノ目ノ生ク向ノ森ノ菴ノ
下カト告ルトハツタリト火モキ一夢モ覚メ
取ハム元ヲ付見ハ成リテナケレバ行ニモアソ
成ルモノハ主シノ兒取リテハハ成子前テ父ノ遺跡ヲ
ト取放干タル野ニ只一ツノ卒都界カア

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

ルツテ仙心取ハ成心カ行唇テ具度ニ引レテ魂
魄去ニ显レ夫卒都界美ニ成久ノア塚之片
夫ヨリ終夜明レ述痛各念ハシテ飯ラセラ
レ父ノ要ヲ吊ルレ夫ヨリ仙心成人シテ道者ト
ナリ成然テ人々哀ノ子父ナレハ成迎ノ子
トナリ成然テ人々哀ノ子父ナレハ成迎ノ子
ノ称名子ヲ建立シテ其後二年三月八日生
セシメメ成然ノ一念テ多夢ノ道ニ唇レタト
アルカラハ長生三州先

成然谷吾妻一下レ儀申成一人ハ武セ国

七一

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 モノが来ル馬ニ送オシテ各ホテホルヨウ解卷ニ依
 タモノヤ近フ依テ見ハ解卷ノ作ト一季ノ虎帯市
 直ニ石アス地蔵ニ早竟モノトヤ以ハスラニ后
 ミヲ見セテ西向ハ去テ号ノウ解卷ノ西ト云カラ夫
 封ノ地オラ系伝強チ地オカ東伝フテハナシ
 封ヒテ云々モノナリナント解卷ノアアリキガ
 地オニヒキキウモノトハサメスルテアウウ敵ニ
 行フテ后ヲ見セル一ニ解卷トリアス
 解卷剛ノ名トヤ以ハスラニ西ニ向テ后ヲ見セチ
 ハ伝ハレテ号ノウニ送ハメトヒ代オニテ号キウモ
 ノトヤ以テモ大ノナヒ解卷ノ名トハレタリ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 ト西ニ向テ后ヲ見セマスハ解卷ノ名トハ勝レタ
 モノナリニ云
 才 七 帝
 遠列藤枝ノ邊生テ子ノ由来ヲ云ハシ
 解卷各集ノ方ヨリ下リノ道中ニ後枝ノ宿手
 蘇ニカリ道牛ノ真中ニ大ナ箱カフア足ハ盗人
 謀テヤガ解卷ハ夫ヒ不知箱ノ中ヲ開テ見タ
 ハ中ニ死人カア是ハ番夕トシヤ性来ノ初ニ
 ナル道牛ノ傍ハナラストトヤト云ハレト三人ノ
 盗人集卷ヲ取モテヤ成ホカ代ハ物ヲ行ラチヲ
 掛クテ与テ元理非道ニ三人シテ衣裳ヲハキ有ル

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 3
 カナ衣ヲハクナ行初モ後カナトント丸襦ニシタ
 ソコテ解卷蓮性我カララシ生サハカ人ヤ七人
 有テ以セル一物ノ数ナラ子尼短元生オスナト上
 人ノア收割夫ヲ破テハナラフ口借シケヒ是
 ニ邊去ノ約束ハ思ハヨヒハホホシクハ皆持テユ
 ケ保レ襦セ一牧致シテクニ襦多ヲ置スニキ
 伝ハ盗人ヒ然石生家トアルウイセツシヤ
 襦セ一ツハヤウケ其外ハテニキニ持テ置タ
 夫ヨリ後枝ノ宿ニカリリハ早クシル襦一牧
 テハ実ヒトドフゾ由縁カアラハ一杯巻タヒモ
 ヤト思ハヤサキニ酒飲而是幸ヒト内ノ意入

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 リ亭主ノ宿ニカト云ハ大キナカラガニ目代モ
 長レ目ノ大ナ坊主カ遠入タモノニ一家内トモ
 モ前元三空子ナリモノカ来タト断ツ情
 レテ店ル解卷ハ夫ナ目テキヨコトト家内ヲ
 泳ノ帝主モコトク何テア堅ルイヤ酒カ一
 無心ガ申タヒソリヤコソ最前カラハ口トシレ
 テ后ニオソヒアラ夫定言ナカタリカ来ル夫定
 ニシ給セ一飲テ是モノトヤロリナ者テハナト内
 人ヤ下ヲテ可リ回シテ喧嘩サ生来ル帝主ニ
 イツ一杯巻セラ早クイナスカユトハ一盃置セニ
 セツ大ナ茶飲ニ一盃リイテヤルト解卷ハグツト

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

春テヤレノウニヒドウゾニア一區區ユ一又一區ツ
 六八各是帝主殿ハナヒゾカ前ノ名テ路
 殿ヲ名有レタ亭主合モカハリ後アテク凡
 大更テ早クイニテ下サレ又カイト春テウ
 ニーノトモノト一駐主ニモフ一區ツイツコフ
 カレヤツレヤセテ春テモ跡テクカニカマハミイカ
 ト云とくマカ百年月トト又一區ツイイ名
 ハリヤノ一テ亭主殿ハナヒゾカテクツト春
 叔伯ハ是テヨビアハカケテ後ハアノ一リタ
 行分給セ一牧テ寒とく内マテ何ツ古希
 田織ノコフナ名カアラハ一ツカレテ下サレニヒカモ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

ドリニハ飯ス伝ハ家内ソリヤコソツナヒリカシ
 タぬラハ春ス預ホノニ其共ニ舌長ナ名者ク
 レンナモノハゴザガリヌ伝ハ名アハレト仲ニハ
 ドウモナヌヌモキハ名とテ亭主アノカレガ
 弟物破タ身子カトコソニ而マツヌマ道セ
 コトドフヤラマフヤラヌヲ納ルノスニカラ公
 テ是進セニセフハヒリ一是ハ春と是テ腰モヨリ
 ナリヤラタモアタニナリ候ニ申兼ヌカ殿一
 貴又カレテ下アレニヒカ去跡テ道人ニ名コレタ
 是夕難名示レ其錢ハ只ハカリヌカレカ大
 夏ノ産出ヲ質ミラク伝ソコテ亭主アキハ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

テ更テ設ニ付ナリカスレ九福ノ名カ何侍テ
 左ヒモノゾ其代口物ハ何ラカア早レ集本殿侍
 合ノ空伝ハ夕ニモ慶レシ又産法念仏十返
 質入ニセウ伝ソコテ亭主家内モ横腹ヲ
 二回ニカニテアノ形ナレ念仏ノ質入ニトリコヤ
 珍ヒハリ神武天皇皇コノ方其家ナモノヲ
 百少モノハレニ一ヨリセウ更カアト盛天若カ東
 タト云ハヨト念カレタト云ハ後モト又念仏
 十返テ一ツク文ヤレテ進セヨトテ一貴文後シテ
 無各南ノ仙ノトト十返無ア一奉アヤレテ
 公行ト家内名ヤレトト荒ヤト進ニハロソシ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

ソメ無各名希子一牧着テ古ノアツ里出シ
 者レハ黒皮オトシノ鏡ヲ着テモ死ナバ悲シイ
 オ卒ノ手テヌニ更ヌカレモノシ今ハ尖奈
 破レ候子ヲ着シテ夫出ノ夫ハ百ト元元尾ノ
 ケヒヤレノ布道ヒ父ノ止トナリト云ト其牛
 二帯ノ百ノ鏡ニ着ル希子サハノ射ル矢ハ
 通サガリテリ南ノ山ト聞来下レ鏡下陰法
 赤レ治聖運性子建立

八
 取集各運性坊相積ノ同ノ行ト白ノ方カラ
 印女傳ノ手ヲ帝名盛美ミレノ梅刺死

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 更更ニ之大ニ見ハス候夫度ナラシ候ヨシ
 ニテ亭加候アテカレマシクハハ籠谷候ヲ
 ハルヒ片断ホト人ハ生中ヲ更ニ作セシメ
 余ハ左殿ニ止来リテ片断更ニ目出シ人ナ
 ラシ候ニ音信ト申シ通スト候セラレシヤ
 未代衆ノ子友比也ヨシニ金所ノ一因ヨリ
 ニ寄リテ了平ノ手境ト大切ニ多々行再ニ
 考十席

61
 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 殊外大切ニ秘反セラレタカ或付舞カノ見
 兼テ幡終ハ目山女五人迄至テ致レタヒト
 シタカ目合度至ラズルニ付テ行ツ年ノ可
 シ見セ合ノ玉ト常ノノ正正年ノ片断
 人ヨリ頂キタル金返ノ名号ヲ成居ノ元
 五ヤト亦氣力坊ヲ托シ候テ形ノ元一献奉
 六直付合候終ノ期更ラシトスル片断去者
 金返ノ先州放テテテテテテテテテテ
 八其間ニハヤク之州カ一杯ニ成テテテ
 スルトトコ元ナリ異香芬トト香ガヒト方
 因ニケレバヨメ候ヲたメホクノ哥来迎引
 存シ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 更目出度年ノ本迄ヲ子ニシタカ舞カ坊
 一際ク去者ヲテ尊信トテテテテテテ
 同リト取リケルハ一トシヤアテテテ
 候テ端光ヲ放テ玉メ信ニトフツガシ
 マナ者テテテテテテテテテテテテ
 元更ニテテテテテテテテテテテテ
 ヨリ舞カ坊ノ方一行トテ月シカ子ノ
 テテテテテテテテテテテテテテテ
 了者テテテテテテテテテテテテテ
 明テ放テテテテテテテテテテテテ
 スドテテテテテテテテテテテテテ

63
 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 夫ヨリ舞カ坊ニハ一ミテテテテテテ
 拜ニテテテテテテテテテテテテテ
 是ヲ舞カ坊トテテテテテテテテテ
 舞カ坊所金之信テテテテテテテテ
 舞ニ舞カ坊ニシテテテテテテテテ
 シテテテテテテテテテテテテテテ
 四リソツト内除ハトテテテテテテ
 候ニテテテテテテテテテテテテテ
 テハ盜賊ニテテテテテテテテテテ
 候トテテテテテテテテテテテテテ
 舞カ坊金リホシサニテテテテテテ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 可難ク存シ候ハカ行ノモツテ前フ進ニヤロフトハ
 タリヤ書付ラ花ノ上ニ置キテテ向メハ
 スルト勢カ坊合ニ建答タニノ名ヲシ解ニ
 来テ行ニモ鳴シモセツ并ニ飯ニテ并サレハ
 人ト以テテ勢カ坊合名ヲ示シタリ夢ニ
 不知取人今日ニ夢答テタリノ動ノ件テ空ニ
 燈香シテ毎テ見タレハ彼者等ノカサメニラ
 亦子共成瓜ハ知ラマコチノ大夏ノ名ヲカ知
 又何テモ今テ日建答カ来ルニハ有タレヤ登
 ニ盗ニシタト行テモ亦子共ニヤク遊ハ遊
 存ニシス一向存シセマレハ全体成ルヲ給任ノ

65
 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 仕答カ要ヒニ付テ勢カ坊合ヲ放テ皇ノ各体不
 ノリ老号ノ本仏ノ二ツトナリテ龍テ向リテ見
 云相ニ成念ヤトカミナラシテ成念カラムカ
 子共ニ遊遊ニ成シテ内際ノ成念ヲウケト
 サカス処アリ礼ノ成ニ付ヤラシメテカアル支
 同テ見レハ建答ノ子ノ跡ニテ人成ニ名号
 ノ一建答ノ余リホレサニシカニモテ向メ
 候系クテ而難ク互候トソテ勢カ坊合ヤ成
 胆ノ建答カフシメテ人ノ大物ナシテ海カ
 ヤロフニ云ハメテ持テ飯ルトハサ
 リニセマ舞付ニモテ向メハサレホニシソヤ

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 ソヤタニラフ舞付ニモテハレテハナラヌ月日ト
 延サレヌ今今日ヤラヌレニ行フ何共コカ
 サリニスイヤクンナタリニテ成モノカソナ
 カ子ニニ同ニ行ケト而テ建答ノ成ニ行シヤ
 グレタニテ而ヨフニテスルト建答ノ成ニ
 気ノノモユニキツメテ成カ情ケアヒカ
 来タト恐レナカラ建答ノ成ニ行タ建答ノ
 レメテ居ル表ニヨリトシトト叩タ建答ニ
 ア向曉キヲコウトトレテ居ルカ子下カ切
 角来タメノヲ行ニテ建答ヲ起シテ建答
 子ハナラヌ成ニテトシトシキリニ叩タソ

67
 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 コ建答ノ余リニ成ニテ誰ニヤカニシイ今
 戸叩タ盗人トヤカ成リニサカ子ノコテ外ヨリ
 シヤト盗モノヲ取リニ来タ勢カ坊合ノカ子共
 成ノ戸同ニ下サレハ建答ノ成ニ行タ建答ノ
 ニケレリコテ例ノ短気ノ成テ行タ成ノ成
 人ノ寤テ居ルニ建答ノ成ニ成テ成チ一カソ
 レテ戸ヲワレニ呈叩タコト推答ノ子一カ成
 ヲ用成アアラハ月日コト建答ノ成ニ成チ一
 リカ子成ハサアタニシラメ成起シ成シハセ
 ヲ名号ヲ成起シテ行子ハナラヌ成ニ成
 成ニシト成セラ成時成成カ余リ叩タ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 右イヤチ藤之申一タカガレハソツト仰じタカ藤
 分ケテナシテテテ大定徳力知テソツスルト
 外ノ出テツカミ殺スル果ヤ夫セヨクテテ
 声ニ成テトカニ是カラ大駭初ニナル女下月ハ
 人ノテテテテテテテテテテテテテテテテ
 人ノテテテテテテテテテテテテテテテテ
 トニニ

牙 十一 席

69
 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 カニラナハ布匠一申分ナヒ成ハイレヤぞ藤ハイト
 アソソト夫テ申テ運性藤糸一スツブ夫戸
 ノ用テ下ナリニセね一返テ布匠一テ決ナレハハイノ
 ントフナ吾ガキニカウロクト目ヲスリノ戸ツ尻
 テ今今ナニシニ急用トハ何ヤ伝ハテ子共カ
 フルイノ一藤ツカメテ別ノ一ニモ非ス今今日ソ
 ノ用断ナシニ他名号ヲ子外ガ布匠ノ物
 名号ヲルカウナリ成テテテテテテテテテテ
 後立テテテテテテテテテテテテテテテテ
 タハ体ノ入レニ成テテテテテテテテテテ
 ハ體卷テテテテテテテテテテテテテテテテ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 シニ以テツメトハフトキニカアレホト怪テ断リ
 伝心通テ口テニハソソモアロケレタシカニ株
 藤ノ藤ニ出テ置テテテテテテテテテテテテ
 ミラレニシテテテテテテテテテテテテテテ
 千万夫ニ申ノ坊ガ後ハ之杯ハナンテテテテ
 ナ名号ヲテテテテテテテテテテテテテテテ
 盗ニハセテテテテテテテテテテテテテテテ
 房ハトテテテテテテテテテテテテテテテ
 外千万モテテテテテテテテテテテテテテテ
 ハテテテテテテテテテテテテテテテテテテ
 下ト大声ニテテテテテテテテテテテテテテ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 テ運テ能カ坊ハモテテテテテテテテテテテ
 スニツテ入テテテテテテテテテテテテテテ
 坊ガアキニセテテテテテテテテテテテテテ
 名号ヲテテテテテテテテテテテテテテテ
 以テテテテテテテテテテテテテテテテテテ
 ロテテテテテテテテテテテテテテテテテテ
 カラテテテテテテテテテテテテテテテテテ
 何テテテテテテテテテテテテテテテテテテ
 テト申ハ行テテテテテテテテテテテテテテ
 ヲテテテテテテテテテテテテテテテテテテ
 モテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

申ニス夫テ孰カ坊或三ソフ云ハソニテ名ナレト全
 体蓋メニ透ナヒホシツフミナツテハカツクテハ中々
 然答ニハナハストフシタ名テアロフモテ彼是モ
 心ニ名ヲ以テ集答ハ固索一トテシモフ又夫
 テ集答是テハスニ夫カラ相決スルニ人ヨシハ
 珠ノ知工丹子ノ中ニ一人ヨシ知工カ也ト処全
 是ハアテタヤ私共カテハ叶ハヌ集答人ノ知アリ
 サツテアケルハカサレ又集答人ノ所ニカ也又
 ラ集答モイナトハ申サレト也或モ是ハ五分別ナ
 リテ右ノアラスヲ夫ヨリ上人一申エレハ五人或モ
 在ナ一ナレト集答モ夫呈ニホシカル者ヲ死理ニ

取カスモカ行ヨレノヲレカ各度ノ直リトテ道
 上支テソフホフモヨイテハアルトヒカサカカ集答
 上人ノ作集答モ夫ハアリカタハ仕合或ヒヤノ
 ソカハ集答ヲ以テイニスル者ヲシテ名法反ト
 系ニスソリヤナゼニイヤアノ各名ヲハ私見ノ儘終
 ニ端光ヲ放テキトクノ名ヲサレバ行辛トコト
 船ニ分下ニセアレハ布難存マムルト申上ラレハ
 集答人モ名号ニツハナケレト示作ラカ一
 ナリク集答ノ名ハソノ道リニモヤラテ下元各
 名ヲ名五レ集答ノ名ハ所集身ソ集シ又無
 名モ名号ヲ過ニスルノ罪ニナラヤト集答ヲ集

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

知度人ノ名ヲ所カテ上人集身集ニ集答也
 テ至シ候合也ノ名号ヲ余リホシカニフシ
 ラルヨシ集身候合ノ罪ニ或スレト人ノ物ヲ
 取付テ候モ止大ナル罪ニテ候イソキ五セレ候
 イイ夫ノ腹ノワルイ兩起サ一ニテ候之レ候
 ニ候モ夫ニ付各名号ヲテ夫少セ候ワキノテハ
 大體ノ集答テテ候ニテ候合也ニ此モテ候
 七急レリ候候取リ直ク候呈ニ黒ノ候糸ノセ
 候京ト固ト呈遠ク候口ニシレシ判ノ加テ
 久クセ候惣集身ニテ人ノ見候也モ集答ナク而才
 ノ契約ニテ候ハ其形見ニ候アテレリト一建永

二年正月一日遊答反原空ヲ移シ此ニ取申候
 集身ノ名号集答見ノ儘終ニ支明或シ候呈
 其後五セレ候アチカレリト石ノ集身集身
 ハサレケレハ集答大ニモ之モテテ元ノ名号
 ヲ集答ハ集答レトアレ今和州集身ノ本集身
 ノ集身トテ是ヲテテ同クト集身ハ集身又
 盗ラセラレトモハカカカカカカカカカカカ
 シ大切ニテカラヤ集答人志シテ候ト作
 ラレタ集身ノ集身ハ夫口立スカカカカカカカ
 シタリ集身ノ集身ハ夫口立スカカカカカカカ
 集身ノ集身ハ夫口立スカカカカカカカカカ

カラヌナリ

才 十 二 會

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 人キリノ出家ドコヒナク星レテノ多クニ六連
 三足ヲ景セメル者カヨ五生トノヲ集本史ヨリ
 是足景セメルト身フト夢夜夕取替ト
 成平生上高上生ノ五ヲ双フニ付テ夢多ク見カ
 ト大ニ荒ク五下日ニ道テ后生人ノ五ノ五キヲ
 申上ラシ其后何事上高上生ノ言テ多ク解
 夕ト双ハレシ月ハ夜ノ五メニ二二方ニ集本史メナ
 心キ本中ノ康五五并サ未迎ノヨソオヒミテ
 夢夕ニ星レメ依テ集本史ノ體カニ完シテ
 若ク示ルニ六夢夕夢先ノ夢等連上人垂
 實我祖傳集本史人夢一日ニ見玉夕夕支ヨリ

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 上人ニ集本ノ生迎稱夢ノ由表后テ記レテ
 峯峽ノニ尊院ニ終ル伝ニ安テヲ集本ノ方ニテ
 ヤラフカカ子ニ百多ニ伝集本人ハクヤク支
 公善用集本傳心ヲ起ルテハ惡ヒク演メノ
 即チ下サレシ夢ハ傳ハカアレハ邪ニノ后テ
 生ノ障リ百ル破ニ集本ヲツカワサル集本又
 私カ生ノガヲ告テト双フメハ其夜ノ夢又ニ
 ア多ク康集本ニ真ノ全ノ包ヲ星レテ月赫
 ミトメ後妙ノ声ニテマヨリ集本テ今年九
 月七日ニ月出及生レト告テノ夢夢覺メリ
 夫ヨリ式成國西國去伝ニ高ルヲニテ建

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 永二年九月七日集本直実入五連性上品生
 ノ大生伝カ付テ出シメリケア因ハ州ノ道
 俗男カ成モク生ノ倍多ク若ヒクヒクセ
 ニヨリ集本今日ハ集本及カ生サレタルト因
 ノ在ニ四四方方モノハ人年ニ或夕其日ニナルト集
 本早朝ニ休信シテ新脈ヲ着シ集本衣ヲ
 ミテ大ナニ休ニ上リ高声ニ而シ山ノト西ニ
 向テ持テ居ル伝何ノ死フ気也ナク九ツ中ス
 中ニナルト西方カラ鏡ノヤラア白雲ナリ
 ト音ト下リ集本ノ信入下ルト入道傳ヤラ
 集本休ニ其雲カチリノ西方サレテ歸ルル

11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

月十四日五箇足也

「熊谷蓮性記」にみられる異体字

熊谷傳參

墨付平二枚

于時天保十三寅朔月中旬五日之終
本書中山口村之西子反ヨリ

潜亮山了子
釋文是也